



e-La Voz
「エーラボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
メールマガジン
(第5号)

2003年3月20日発行

愛で地球 グローバル を救おう

北米テネシー州ノックスビル市の教会でひらかれたグローバル・ミッション・コンファレスに出席してきました。春の訪れを告げるダッグウッド(花みずき)は、まだ蕾みがかたく、枝いっぽいに四弁の花を咲かせるには今しばらくの時間がかかるようでした。世界宣教大会が開かれたシダースプリングス長老教会は、1796年、馬に乗った伝道者が開拓をはじめたもので、小さな木造の教会からスタートしましたが、現在は、同じ敷地に数棟の建物をもつ四千人規模のメガ教会に成長しました。毎年この時期に九日間、国内外の宣教師家族を招待して、世界宣教へのチャレンジをあらたにし、宣教師を支援している教員との相互の交わりを行っています。今年の特別講師は、HCJB前会長のロナルド・クライン博士でした。私たちも会場を転々としながら、礼拝、成人クラス、婦人会、小学生、高校生、大学生クラス、朝食祈祷会、昼食会、夕食会などで、HCJB日本語インターネット・ミニストリーについて報告しました。滞在した家族とは初対面でしたが、とても親切にしていただき、日本語ホームページをひらいて、来客にも紹介してくださいました。三度目の出席なので、顔見知りの人たちもふえ、祈り、祈られる関係のきずなをお互いに強めることができたのは幸いでした。



現在この教会が支援している宣教師の数は137組で、そのうち今年の出席者は37組だけでしたが、グローバルと呼ぶにふさわしいいろいろな国で活躍する人たちとの出会いがあり、同じ宣教師としての思いを分かち合うことができました。その何人かをここでご紹介したいと思います。

- エジプト人のレーソンダック夫妻：セイシェルとケニヤ宣教したあと、現在スロバキアの大学生、高校生に伝道、孤児院も経営。子供は6人。
- ヨルダンのアラブ難民キャンプで宣教しているアティア夫妻：以前日本で大学生伝道にたずさわったことがあり、日本語でいさつされました。中肉中背で親しみのあるエジプト人でした。
- フィル・カントレルさん：タタールスタン（ロシア連邦）で平和部隊として活躍したあと、モスクワで耳の不自由な人たちのための教会をつくり、その後タタールスタンにふたたび移って今は身体障害者のための教会に挑戦。
- インド人のポール・ビリーさん：アメリカに留学して修士号を受け、タイに重荷をもって宣教師として入国、教会建設、教育、信徒訓練、カウンセリングなどで広く活躍。
- フィリピン人のマリング夫妻：インドネシアで伝道している時、イスラム教徒の迫害にあって、国外追放を受けたものの、挫けず近隣諸国の巡回伝道にフル回転中です。



日本に関係のある宣教師にも会いました。神奈川県横須賀市追浜で婦人宣教師だったサンディ・モースさんは、縁あってメキシコ人のカルロス・リオさんと結ばれ、メキシコのバナ半島最突端の町で教会建設中。40年以上も日本伝道に生涯をささげたサンディさんは、北米に帰国したあともアパートの近くの事務所を借りて日本人への集会を続けていました。大阪で宣教している息子に会いに行きたいと話していました。そのほか、今回は国内宣教師も多数参加しました。朝食祈祷会で隣にすわったゴードン・アダムスさんは、がっかりした元海兵隊員で、従軍牧師に導かれた体験をいかして、地元でシェリフ（警察官）専属牧師として奉仕しています。大きな腕で私をだきかかるようにして熱心に祈ってくれました。新しい動きのひとつとして気づいたことは、教会が次世代をなう学生伝道に力を入れていることでした。温暖な土地柄もあって世界からの留学生が大学に集まくるので、国際学生伝道はこれからも積極的にすすめられるようでした。私たちを空港に迎えてくれたレギヤーさん夫妻も結婚四ヶ月、まもなく留学生伝道のためにドイツへ宣教師

として飛び立ちます。

私たちは戦後の科学主義と物質的な豊かさがすすんでいくなかで、「こころ」の問題がいつのまにかなおざりにされてしまったようです。新世纪を迎えても世界情勢は先の見通しあり難く、むしろ混乱と不安は深まるばかりです。「もの」の大生産化、能率化、高度情報化のはなやかさが、人間の目に最も大事なもの見えなくしてしまっているのです。「20世紀は近代科学的な方法が相当なところまですんだが次の21世紀は反転させてこころの自然破壊、こころの汚染に注目しなくてはならない」と有識者は警告を与えています。そのため教会は立ち上がっているのです。人間生来の欲望と憎しみが生み出す終りなき戦いは、神の愛とゆるしなしには止めることはできません。いまこそ教会は神のメッセージを託された宣教師を世界のすみずみまで送り出さなくてはならないのです。全人類を愛しておられる創造者なる神は、「すべてのつくられたものに福音を伝えよ」と命じられました。これを受けた教会と使命に立った宣教師がチーム・ワークを組んで、神とともにこの遠大な救いの計画に参加しているのです。歴史と伝統のなかで底流となって流れているダイナミックな神のみこころをひしひしと感じる宣教大会でした。



在主 戻崎一夫 久子

このメールマガジンは、HCJB『アンデスの声』日本語部の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB『アンデスの声』日本語部](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。ご面倒ですが、[HCJB『アンデスの声』日本語部](#)まで別途メールにてお知らせください。

配信の停止 (**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

配信変更先のメールアドレス
(**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

新規登録するメールアドレス

お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
このメールマガジンはコンテンツが大きいため、携帯電話への配信はできません。



Copyright © 2003 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>
Eメール: kozaki@hcjb.org.ec

郵便の宛先: HCJB, Casilla 17-17-691, Quito, ECUADOR